

センター通信



区切りの5年目

2023年度はセンター認定されてから区切りとなる5年目です。昨年度は多くの企画を運営しましたが、今年もそれに負けないよう頑張ります。

また地域も巡回していく予定なので、皆様どうぞよろしくお願いたします。

【軽度認知障害】

園原 和樹 医師

I. 認知症の早期発見・早期治療

認知症は「後天的な脳の障害により、いったん正常に発達した認知機能が低下し、日常生活や社会生活に支障を生じた状態」と定義されます。認知症は時間の経過とともに症状が進行するため、症状の軽いうちに認知症を正しく診断して薬を開始すること（早期発見・早期治療）が重要となります。

認知症の前段階のことを**軽度認知機能障害**（MCI:Mild Cognitive Impairment）と言います。MCIの10～15%が1年後に認知症に移行するため、認知症の進行予防にはMCIの段階から定期的に病院を受診し、認知症早期より治療を行うことが大切となります。

II. 軽度認知機能障害（MCI：Mild Cognitive Impairment）とは？

MCIは「正常老化過程で予想されるよりも認知機能が低下しているが、認知症とはいえない状態」と定義され、言い換えると正常と認知症の境界の状態（認知症の前段階）となります。

MCIの特徴は（1）患者または家族より認知機能低下の訴えがある、（2）病院で実施される認知機能検査で異常を認めない、（3）日常生活が自立していることとなり

ます。また、認知症への移行率については、認知症のない高齢者が一年の間に認知症となる率が1～2%に対して、MCIは10～15%と認知症への移行率が高いことが特徴です。

MCIは記憶力の低下のある健忘型MCIと、記憶力以外の認知機能の低下のある非健忘型MCIの2つに分類されます。近年の認知症診療では、認知症の主症状が記憶障害から認知機能の低下へと改められており、記憶力以外の認知機能の低下（複雑性注意、遂行機能、言語、知覚-運動、社会的認知など）を意識して、患者・家族より丁寧に話を聞く必要があります。病院の検査によりMCIと診断された場合は、今後認知症に進展する可能性があることを患者と家族に伝えた上で、外来診察を通じて認知機能を定期的にフォローアップすることが何より大切となります。



認知症とお薬 【 新薬・レカネマブ 】

薬剤師 宮崎優



【 こんにちは！ 】

2回目のセンター寄稿となります。

今回は、認知症領域でホット(?)な2023年1月16日に申請中の新薬「レカネマブ」について一緒に勉強していきましょう。

今回は、認知症領域でホット(?)な2023年1月16日に申請中の新薬「レカネマブ」について一緒に勉強していきましょう。

【 その前に。認知症って・・・ 】

ひとつに言っても様々なタイプがあります。

そのうちのひとつのタイプ

「アルツハイマー型認知症

(AD; Alzheimer Disease)」の診断には

①臨床症状(記憶障害など)

②神経細胞病変

(リン酸化タウタンパクの蓄積)

③アミロイドベータ(Aβ)の蓄積

があつて診断されます。

軽度認知症(MCI)やそれ以前の診断前の段階も併せたくすべての段階を

アルツハイマー<病>と言います。



【 今までのAD型認知症の薬は 】

今日の日本で承認されている

アルツハイマー型認知症に使用される薬剤は

・神経伝達物質(アセチルコリン)量の低下に対してはドネペジル、ガランタミン、

(食欲低下があれば)リバスチグミンなど

・怒りっぽい人には、興奮系の神経伝達を抑制するメマンチンなど

・焦燥性興奮(焦ってパニック!の様な)

には抑肝散やリスペリドンなど

・不安があればクエチアピンなど・・・

患者さんの症状に応じてお薬を使用します。

【 レカネマブは? 】

「レカネマブは抗アミロイドβプロトフィブリル抗体(ヒト化IgGモノクローナル抗体)の注射薬です。」

・・・これだと何だか分かりませんが、

簡単に言うと、「溶けやすいアミロイドβ」の形である「プロトフィブリル」と結合する抗体医薬品です。溶けにくいアミロイドβ(不溶性凝集体)も似た形を含むため、そちらにもくっつきま

す。「アミロイドβ」が神経に蓄積・沈着しないようにするお薬と言えます。



したがって、申請中の適応は

「**脳内アミロイドβ病理所見(アミロイドPET評価)されたアルツハイマー病**」「**軽度認知症(MCI)**」「**軽度認知症(早期AD)**」でした。

今日使用されている薬剤に対して、レカネマブは更に初期の段階からアルツハイマー型認知症の進行抑制をすることができる、予防療法に「近い」進行止め薬と言えるのではないのでしょうか。

ですので、今までのお薬はそのまま、患者さんの症状に応じて使用していくことに変わりはないと考えられます。

2023年1月16日時点では既に臨床試験第Ⅲ層が終了し、新薬承認の申請をしているようです。

アミロイドPETの評価では、3か月投与で有意に脳内アミロイド蓄積の減少が報告されているようです。また、副作用はInfusion Reaction(点滴時のアレルギー反応)26.4%、ARIA-H(脳微小出血、脳出血、脳表へモジデリン沈着)17.3%、ARIA-E(浮腫/浸出)12.6%、頭痛11.1%、転倒10.4%であったようです。

有効性と副作用などの様々な項目を考慮した、厚生労働省の判断を待つのみです。

≪ ヒトコトまとめ ≫

①今後レカネマブの話題に注目?!

②でも今飲んでお薬を勝手に止めてはいけませんよ!

まずは医師へ相談しましょう。

③必要ならば、薬剤師も是非ご利用下さい。

医療法人社団 敬仁会 桔梗ヶ原病院

〒399-6461 長野県塩尻市宗賀1295

電話番号 : 0263-54-0012

F A X : 0263-52-9315

桔梗ヶ原病院認知症疾患医療センター

直通電話番号 : **0263-54-7880**

F A X : 0263-54-7881

Eメール : geriatric-medicine@keijin-kai.jp